

グループワーク

⑥ 小児の水分栄養管理 40 分

- ・小児の栄養、摂食・嚥下、水分管理、胃瘻、胃チューブ、ED チューブ
- ・IVH
- ・逆流防止術

⑦ 小児医療の今 30 分

- ・NICU の医療の今
- ・PICU の医療の今

⑧ 親との関わり方 50 分

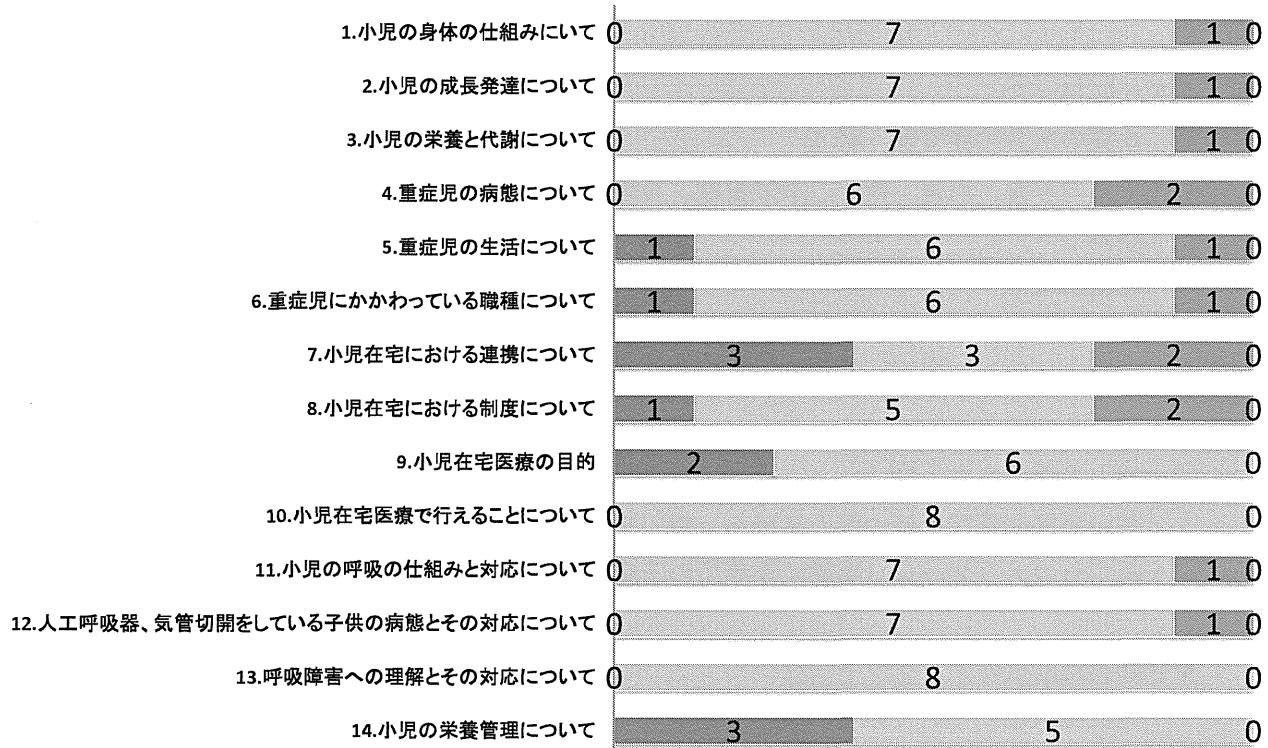
- ・重い病気や障害を持つ親の気持ち、想いを知る
- ・親からのメッセージ（実際に重症児の子育てを行うお母様に講師として参加）

◆研修実施前後のアンケートから

小児在宅医療について以下の質問をしたところ、事前アンケートではわからない・まったくわからないという回答が多かったが、研修後アンケートではとてもわかる・わかるとの回答に変化し、この 1 日の研修だけで、小児在宅医療の実施ができそうであるとの回答を得た。この研修を継続的に行っていくことで、実際 在宅医療に従事する医師が小児在宅の往診に協力してくれることで、小児在宅医療にかかわる医師を増やすことができると考えられる。添付資料あり

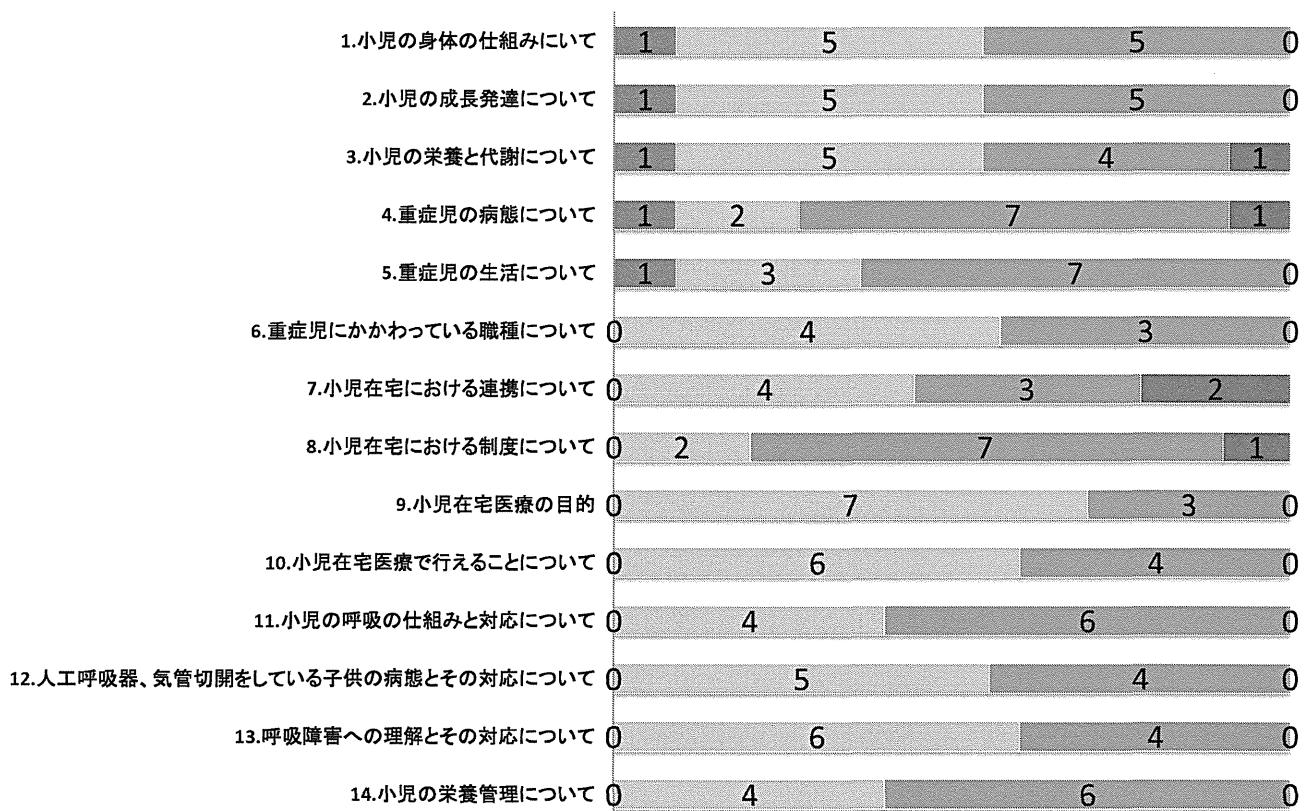
医師部会 パイロット研修2 事後アンケート(理解度)

■ とてもわかる ■ わかる ■ わからない ■ 全くわからない



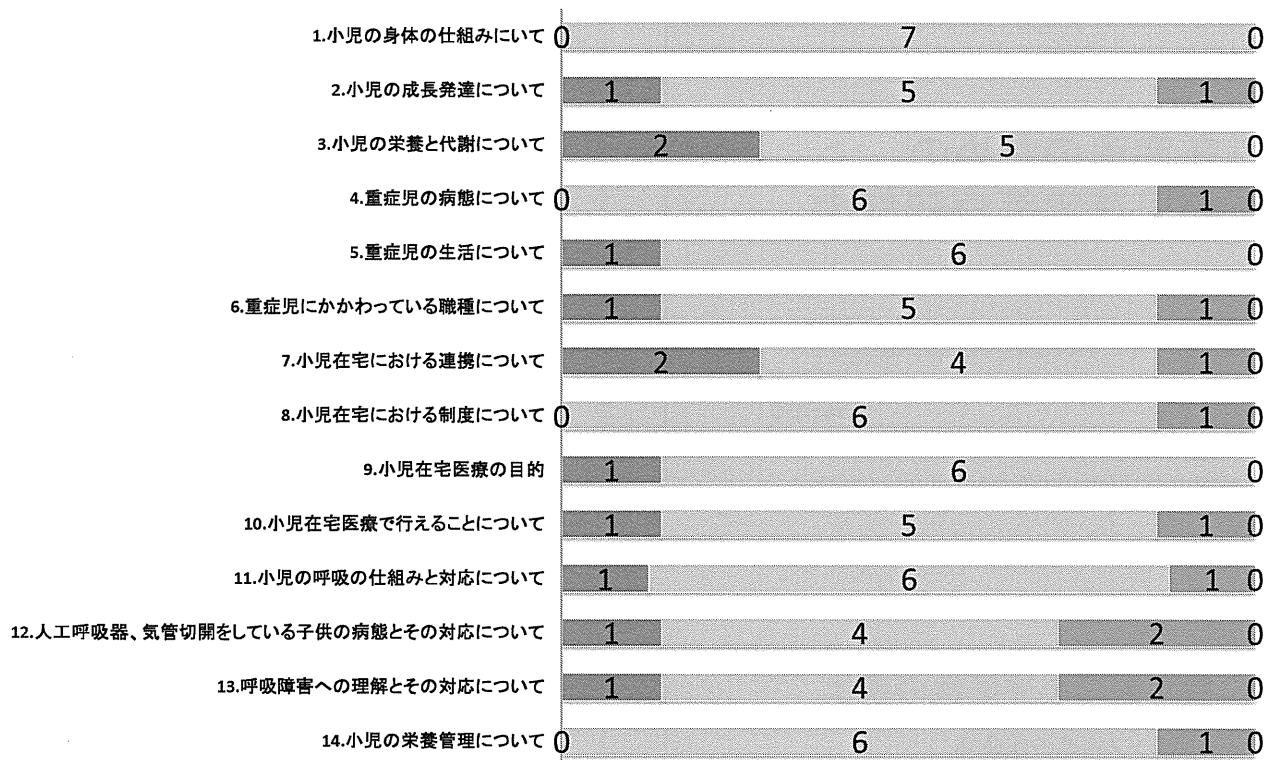
医師部会パイロット研修2 事前アンケート(理解度)

■ とてもわかる ■ わかる ■ わからない ■ まったくわからない



医師部会パイロット研修2 事後アンケート(実施できるか)

■ 実施できる ■ 実施できそう ■ 実施できない ■ 全くできない



在宅医のための 小児在宅医療研修会

子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田
前田浩利
2013年2月3日

研修カリキュラムは厚生労働省
科学研究費補助金事業

実施は平成24年度厚生労働
省在宅医療連携拠点事業

我が国的小児医療の現状

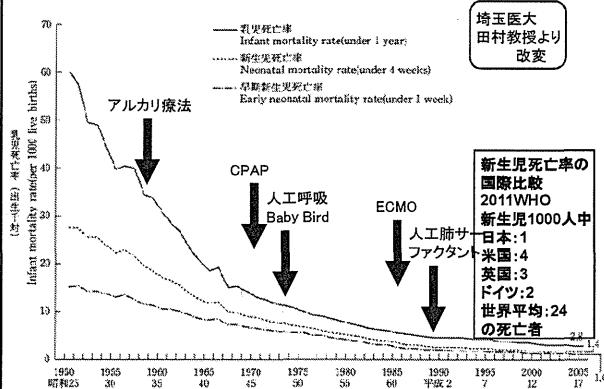
- 世界トップ水準の救命率
- 高度な医療機器、テクノロジーによって救われる子どもたちが大変多い
- 特に新生児領域の進歩は凄い
 - 22週、500g未満の子どもが普通に助かる
 - 低体温療法など治療の進歩



子どもの死亡数の減少

	0歳～19歳までの 死亡者数
昭和60年 (1985年)	18,488人
平成13年 (2001年)	8,069人
平成22年 (2010年)	5,836人

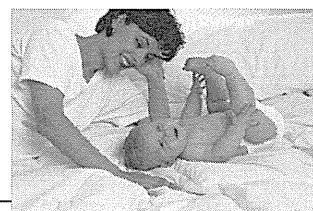
新生児死亡率の推移



予想していなかった事態

- ほとんどの子どもたちは元気に普通に生活できるようになった→退院
- しかし、一方医療機器と医療ケアに頼らなければ生きていけない子どもたちが生まれた
 - 人工呼吸器
 - 気管切開
 - 経管栄養

超重症児



超重症児

- 医学的管理下に置かなければ、呼吸をすることも栄養を摂ることも困難な障害状態にある児で以下のスコア25点以上。準超重症児は10点以上
- 呼吸管理
 - レスピレーター(10) 気管内挿管(8) 鼻咽頭エアウェイ(8) 酸素吸入(5)1時間1回以上の吸引(8) 1日6回以上の吸引(5) ネプライザーの常時使用(5) 1日3回以上使用(3)
- 食事機能
 - IVH(10) 経管、経口全介助(5)
- 消化器症状 制御できないコーヒー様の嘔吐(5)
- 他の項目
 - 血液透析(10) 定期導尿、人工肛門(5) 体位交換1日6回以上(3) 過緊張により臨時薬(3)など

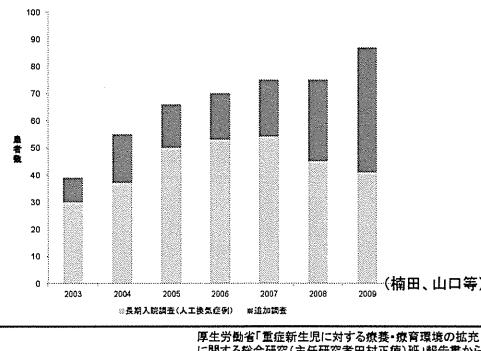
母体搬送受け入れ困難の原因

埼玉医大
田村教授より
周産期医療ネットワーク及びNICUの後方支援に関する20年度実態調査の結果について
(厚生労働省医政局指導課 2010.5/10)

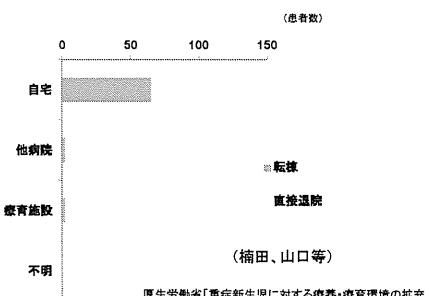
母体搬送受入が出来なかったケースがあった総合周産期センターは、62センター／有効回答79センターうち搬送受入が出来なかった理由について回答のあった47センターの理由別センター数の割合（複数回答）

理由	NICU満床	MFICU満床	診察可能医師不在	その他
センター数	53	32	17	33
割合	85.5%	51.6%	27.4%	53.2%

人工換気中のNICU長期入院児は減少したが、人工換気のままの転出症例が増加



人工換気のまま1年以内にNICUから転出先



そんな子どもたちはどれくらいいる？

- 正確な統計は無い
- これまでの部分的な統計を基に推測すると小児人口10,000人につき5人から10人
- 我が国的小児人口比から計算すると1万人から2万人程度 各県に200人から400人程度



超重症障害児の我が国の現状 —全国8府県のアンケート調査—

- 宮城、千葉、神奈川、滋賀、奈良、大阪、兵庫、鳥取で20歳未満の超重症児を日本小児科学会倫理委員会(杉本ら)が2007年に調査
- 超重症児は1246人で、67%が新生児期に発症し、発生率は小児人口1000人対0.19～0.45 平均して0.3 (全国に6800人と推計)
- 感染症などで入院した重症児の15%がそのまま病院に留まっているという

医療依存度の高い重度障害児者の在宅ケアの貧困

—全国8府県の超重症児のアンケート調査より—

- 在宅児は約70%
- 非常に重い在宅児の医療ケア
 - 人工呼吸器…31%
 - 気管切開…54%
 - 経管栄養…94%
- 貧弱な在宅支援
 - 訪問診療を受けている児…7%
 - 訪問看護を受けている児…18%
 - ヘルパー利用…12%

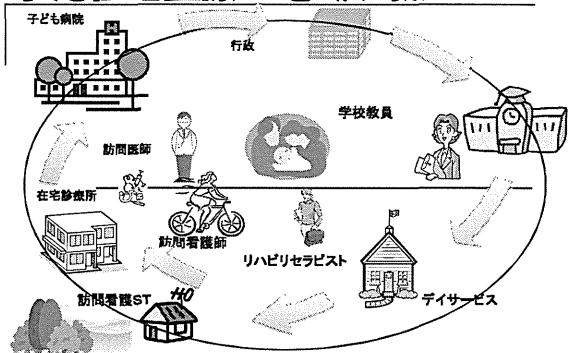
小児医療の進歩が生みだしたもの

- 重症児、超重症児の増加
 - ↓ 退院できない子どもたち
- 新生児集中治療室の不足の社会問題化
 - ↓ 支援の少ない環境への退院
 - ↓ 家族の疲弊
- 頻回の入院
 - ↓ 医師、看護師の疲弊
- 小児基幹病院の病床不足

小児の在宅支援の特徴

- 高度な医療ケアの必要性
- 小児在宅医療の対象となる患児が少なく臨床蓄積が困難
- 小児在宅医療の患者は多くが病院主治医をもつている（高齢者、成人は在宅主治医のみが多い）
- 小児の訪問看護は複数の訪問看護ステーションが関わることが多い
- 退院調整の難しさ 高度医療機関からの直接退院が多い
- 特別支援教育との関わりや行政との関わりの多さ

小児在宅医療の地域支援



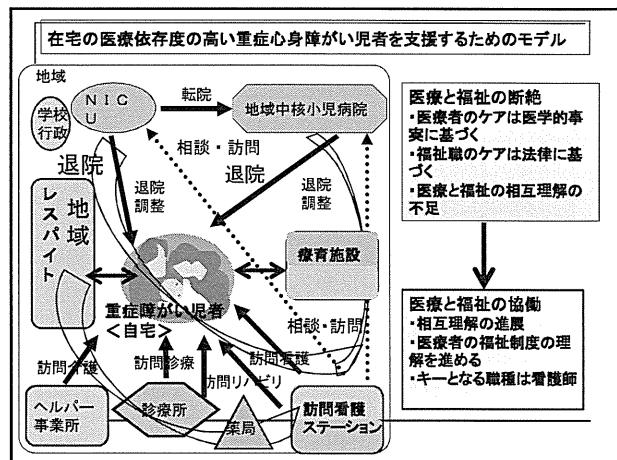
重症障がい児地域支援に関わる職種

	地域	病院	ショートステイ施設 日中預かり施設
医師 歯科医師 薬剤師	往診医・近隣開業医 訪問歯科医師 地域薬剤師	外来医師・病棟医師 病院歯科医師 病院薬剤師	担当医師
看護師	訪問看護師 多数の事業所から訪問	病棟・外来看護師	看護師
リハビリセラピスト	訪問リハ	通院リハ	施設セラピスト 通所リハ
ヘルパー	訪問ヘルパー		介護職
ケースワーカー	診療所ソーシャルワーカー	病院ソーシャルワーカー	施設ソーシャルワーカー
教育者	特別支援学校の教員		
行政	障害福祉課、保健師		

重症障がい児地域支援に関わる職種(現状)

	地域	病院	ショートステイ施設
医師 歯科医師 薬剤師	往診医・近隣開業医 訪問歯科医師 地域薬剤師	外来医師・病棟医師 病院歯科医師 病院薬剤師	担当医師
看護師	訪問看護師 多数ヶ所から訪問	病棟・外来看護師	看護師
リハビリセラピスト	訪問リハ	通院リハ	施設セラピスト
ヘルパー	訪問ヘルパー		介護職
ケースワーカー	診療所ソーシャルワーカー	病院ソーシャルワーカー	施設ソーシャルワーカー
教育者	特別支援学校の教員		
行政	障害福祉課、保健師		

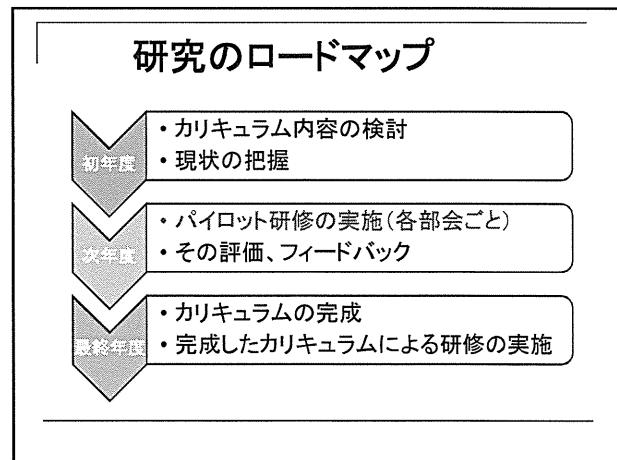
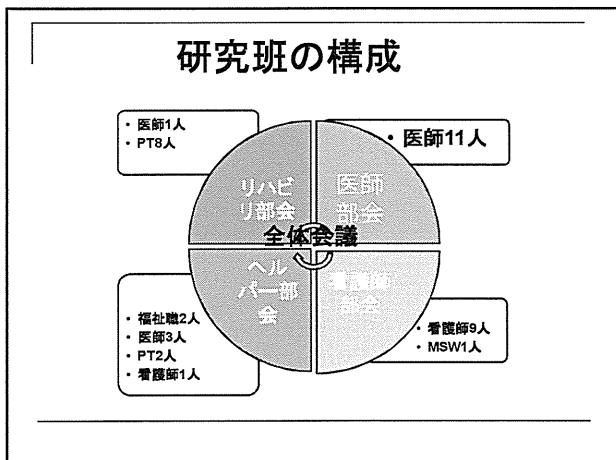
高齢者の地域支援に関わる職種			
	地域	病院	レスパイト施設
医師 歯科医師 薬剤師	住診医・近隣開業医 訪問歯科医師 地域薬剤師	外来医師・病棟医師 病院歯科医師 病院薬剤師	担当医師
看護師	訪問看護師	病棟・外来看護師	看護師(介護難)
リハビリセラピスト	訪問リハ	通院リハ・通所リハ	
ヘルパー	訪問ヘルパー		
ケースワーカー	ケアマネージャー	病院ソーシャルワーカー	
教育者	特別支援学校の教員		
行政	障害福祉課、保健師		



医療依存度の高い小児及び若年成人の重度心身障がい者への在宅医療における訪問看護師、理学療法士、訪問介護員の標準的支援技術の確立とその育成プログラムの作成のための研究
平成24年度障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野)

研究員の構成

- 主任研究者:1人
- 分担研究者:8人 研究協力者:28人
 - 医師……………15人
 - 看護師……………11人
 - リハビリセラピスト…9人
 - MSW……………1人
 - 福祉職……………2人



**<あおぞら診療所墨田の
拠点事業のめざすところ>**
東京都23区の病弱・重症の
子どもたちとその家族を一人
も漏らさず、支えることのでき
る地域ネットワークを創る

拠点事業の展開 <ロードマップ>

2012 7月

2012 9月

2012 10月

2012 11月

2013 1月

2013 2月

キックオフ全
体会議

墨田区連携
会議①

墨田区連携
会議②

全体会議②

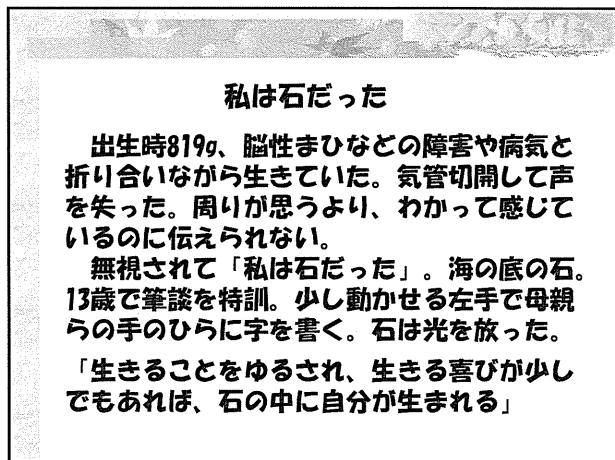
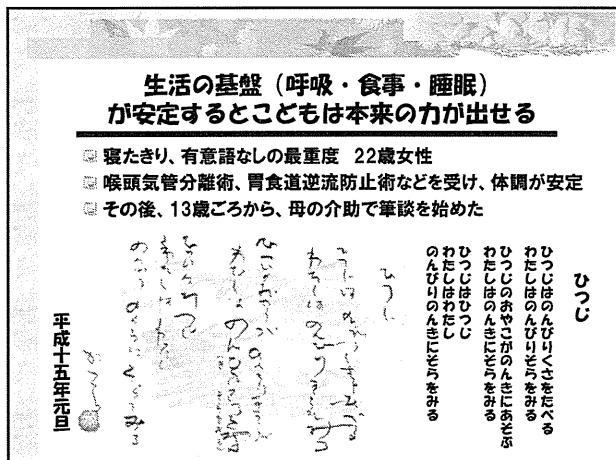
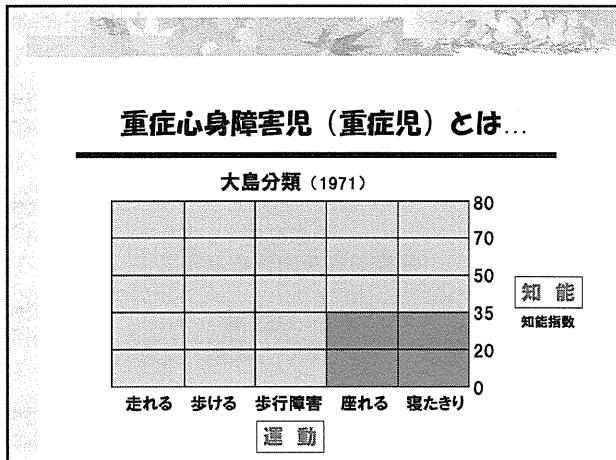
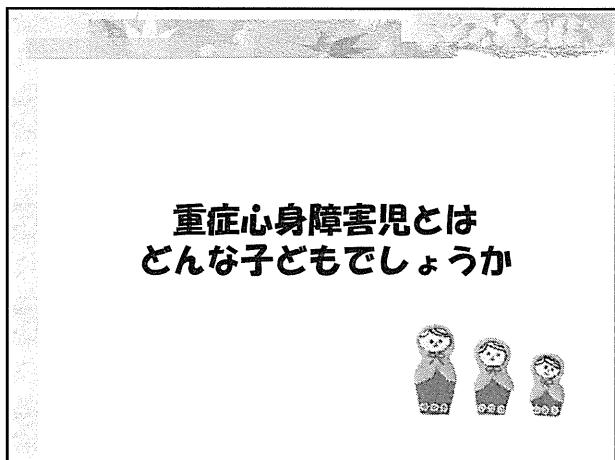
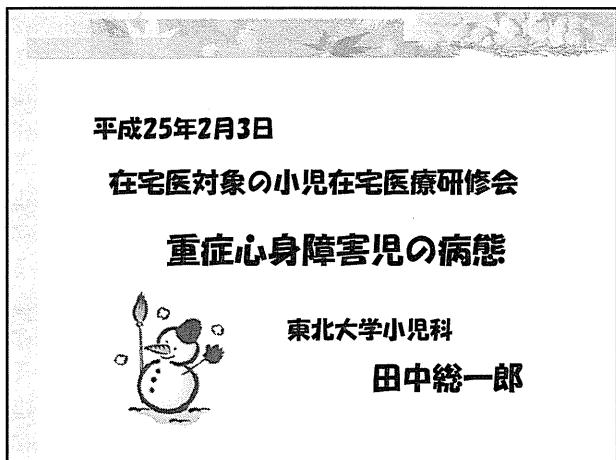
墨田区連携
会議③

全体会議③

総括

<在宅医療連携拠点のタスク>

- 小児在宅医療他職種連携の課題に対する解決策の抽出
 - 連携のモデル地区づくり 不足した社会資源の割出
- 在宅医療者の負担軽減の支援
 - 所属の異なる多職種が情報を共有できるITネットワーキングの事業提携
 - 診療連携の模索
- 効率的な医療提供のための多職種連携
 - ケースに基づく地域連携会議の開催
- 在宅医療に関する地域住民の普及啓発
 - 一般に開かれた研究会の開催
 - 小児在宅医療に従事する人材育成
 - 研修の受け入れ、研修会の開催



脈拍で会話

私が眠った状態に見えても「意識は起きている」ことを理解してもらえたおかげで、状況は激変しました。

脈拍で会話できるようになったのです。

例えば、音楽をかけて、うるさいなあと感じたときは脈が上がり、好きな曲だと脈が落ち着くのです。

一か二の微妙な数値の変化です。

脈拍によるコミュニケーションで「関わってもらえる可能性」が生まれました。

花の冠 (大越桂・詩 松浦真沙・曲)

嬉しいなどいう度に
私の言葉は花になる
だからあつたらいいなの種をまこう
小さな小さな種だって
君と一緒に育てれば
大きな大きな花になる

花をつけたかんむりを
あなたにそっとのせましょ
今は泣いてるあなたでも
笑顔の花になるように

野田佳彦首相は28日の所信表明演説で、結びに仙台市太白区の詩人、大越桂さん(22)の詩「花の冠」の一節を引用し、震災からの復興に向けて踏み出す覚悟を示した。

「私の詩が総理大臣の声で聞こえて驚きました」。脳性まひや弱視など、重度の重複障害がある大越さんは、自宅で国会中継の録画を見て穏やかな笑顔を浮かべたという。

「うれしいなどいうたびに 私の言葉は花になる だから
あつたらいいなの種をまこう 小さな小さな種だって
君と一緒に育てれば 大きな大きな花になる」

詩を紹介した野田首相は続けて「希望の種をまきましょう。そして被災地に生まれる小さな希望の芽を、みんなで大きく育てましょう」と呼び掛け、議場から大きな拍手が湧き起こった。

平成23年10月29日 河北新報

重症児の全員がこのように表現できるわけではありませんか、
何かしら感じていること、思っていることがあるはず
と考えて接することをたいせつにしています

子どもが 本来の力を出せるように

医療の役割は
生活の基盤（呼吸・食事・睡眠）を整えること

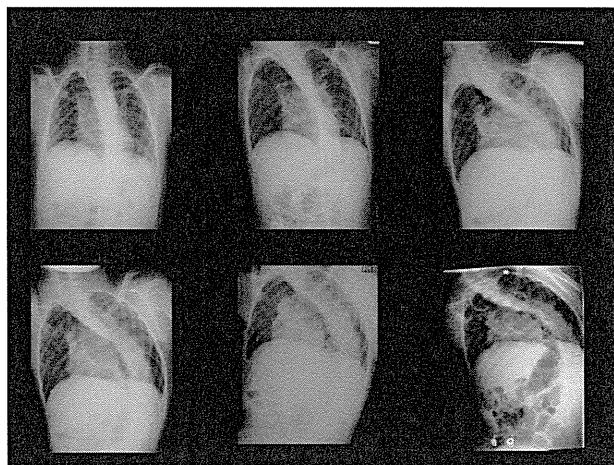
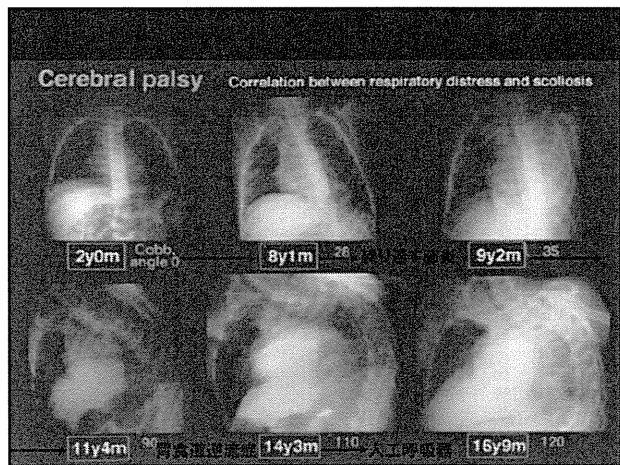
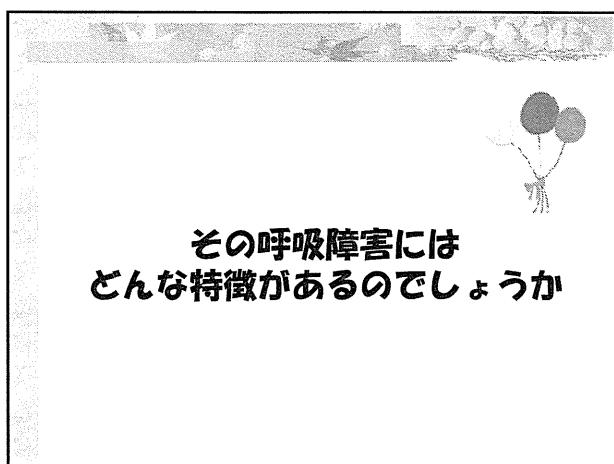
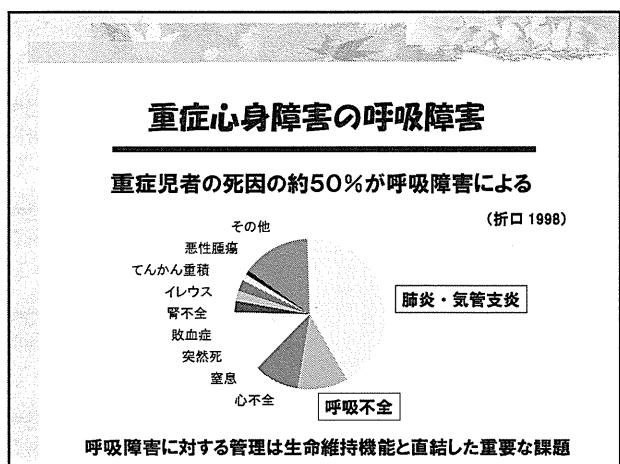
重症児特有な考え方、問題点、対応法

1. 療育：治療しながら育てる、子どもは発達する
2. 摂食嚥下障害：VF、食形態変更、経鼻胃管
3. 胃食道逆流症：十二指腸チューブ、Nissen逆流防止術+胃瘻
4. 気管カニューレ管理：カフなし、肉芽対策、気管鏡頭動脈瘤予防
5. 唾液の垂れ込み：口腔内持続吸引、スピーチバルブ、喉頭気管分離術
6. 筋緊張亢進：痙攣性麻痺から生じる関節拘縮、変形、側弯
7. てんかん発作：日常的にみられる（どこまで家でみていられるか）
8. 親御さんの思い

親死、子死、孫死



- ◎ 仙崖和尚が信者にめでたい言葉を書いてくれと請われ
「祖死父死子死孫死」と書いた
- ◎ 重症児のご家庭では、逆縁で子どもに死なれるつらさ、恐さがあります
- ◎ 丈夫に産んであげられなかつたという自責の念があり、
親が守らなければと思うあまり、医療者や介護者に多くを求めてしまいます

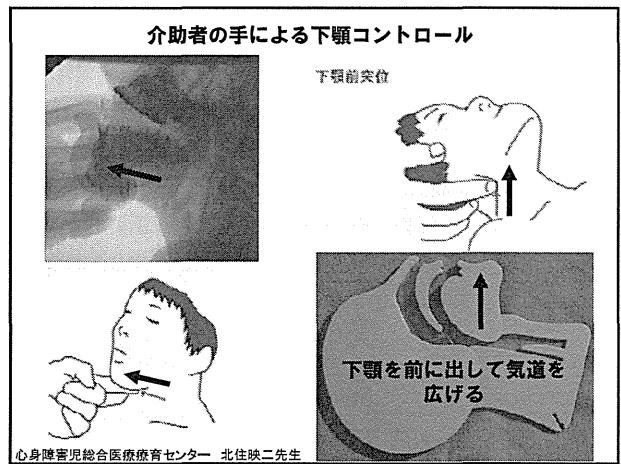
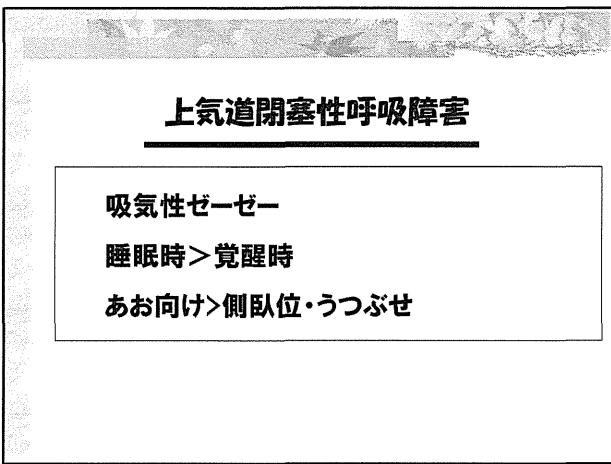
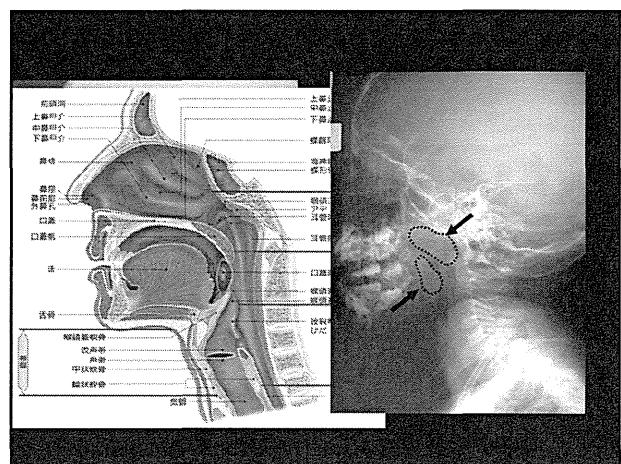
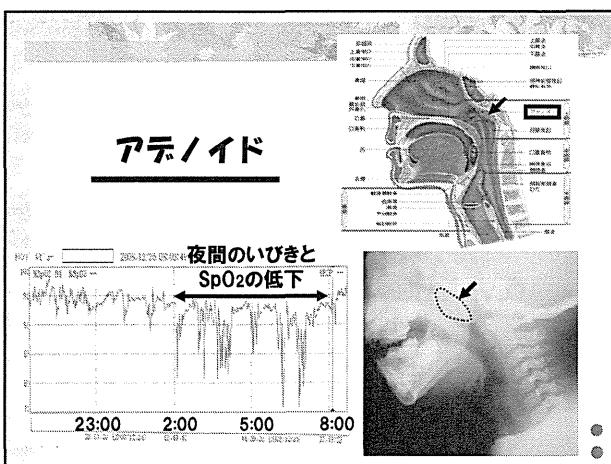


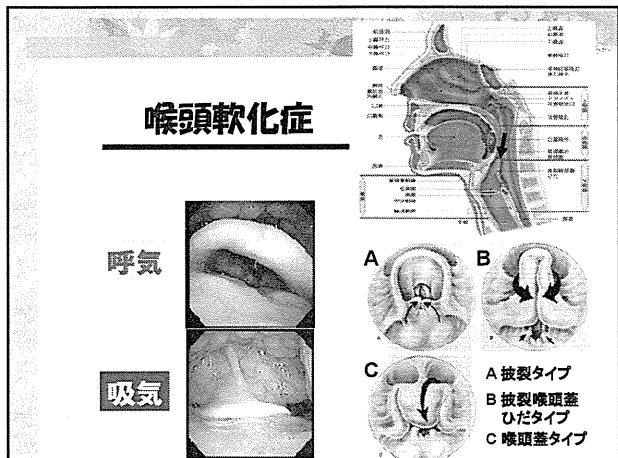
重症児の呼吸障害の特徴 1

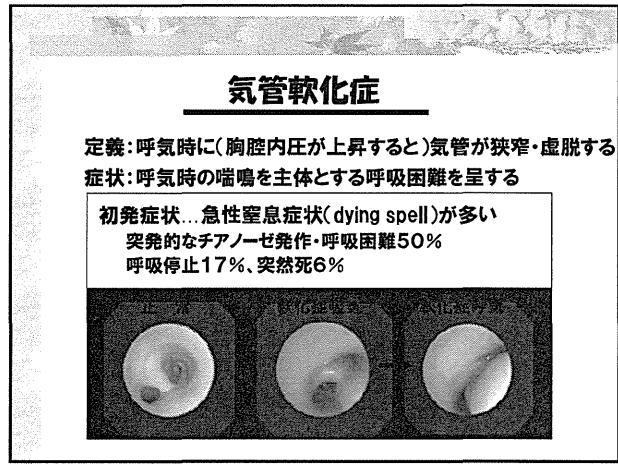
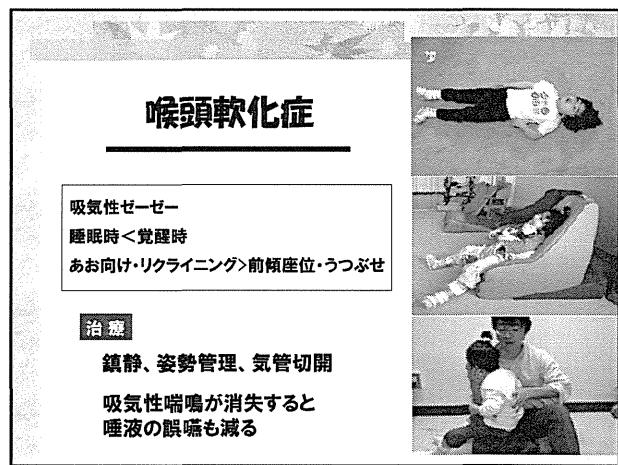
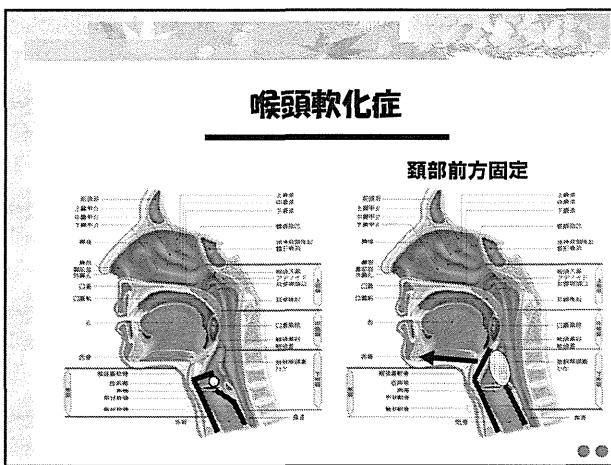
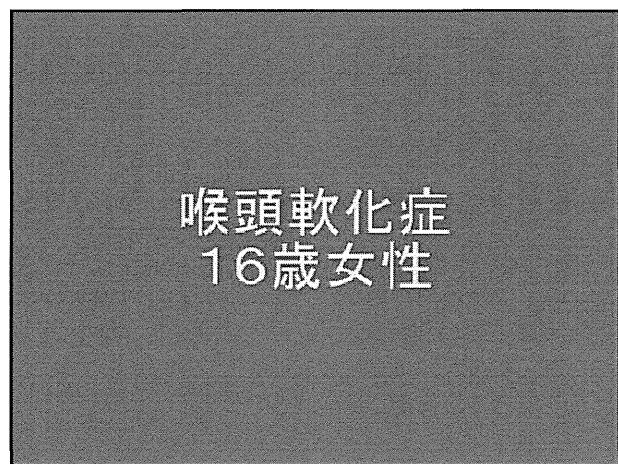
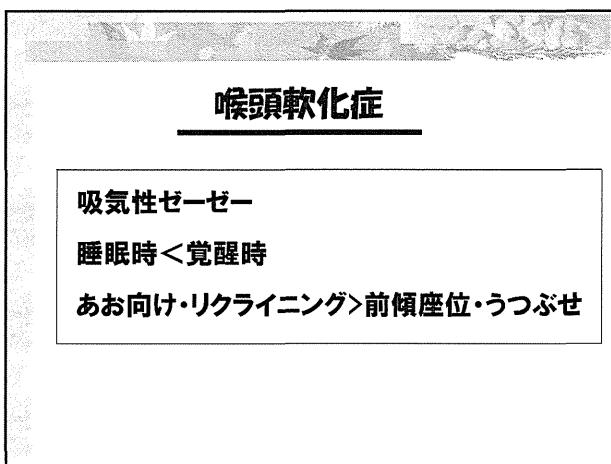
- 異常姿勢から変形が進行して息が苦しくなる
- 全身の異常姿勢パターンから円滑な呼吸運動が障害
- 固定化されると胸郭の可動性が低下、変形が進行
- 換気量が低下する

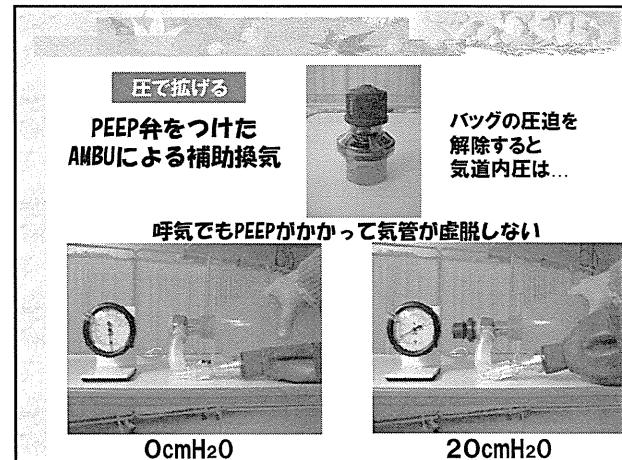
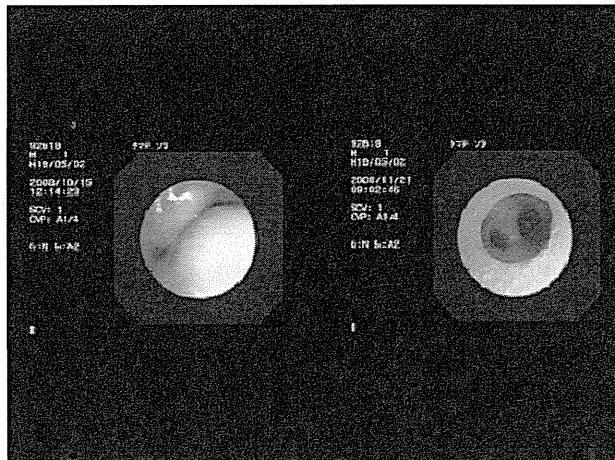
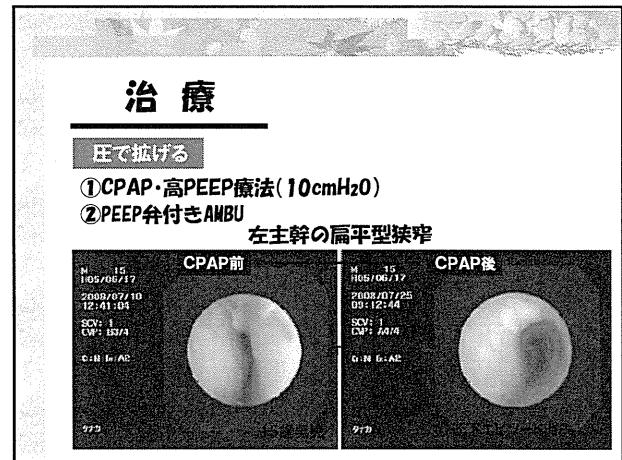
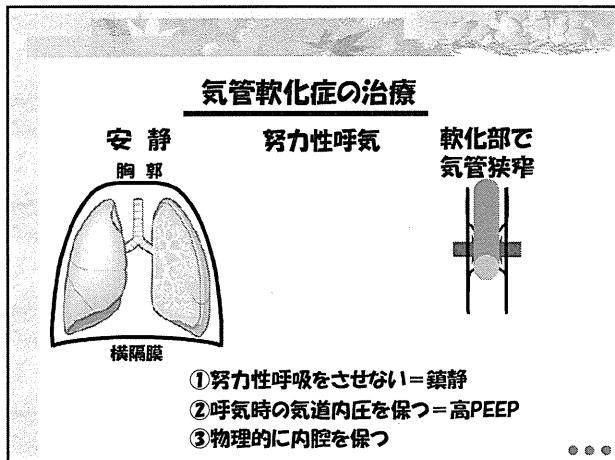
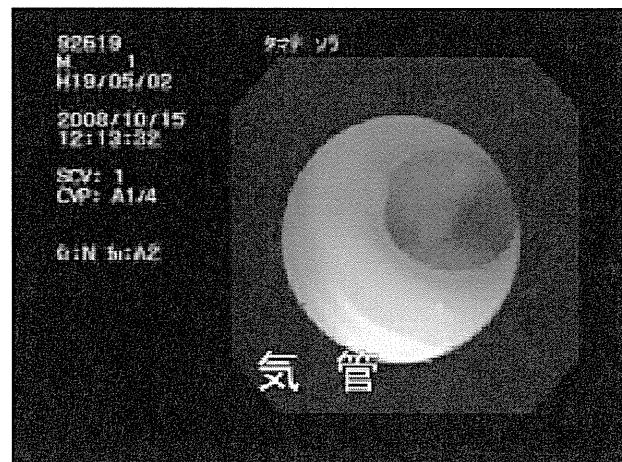
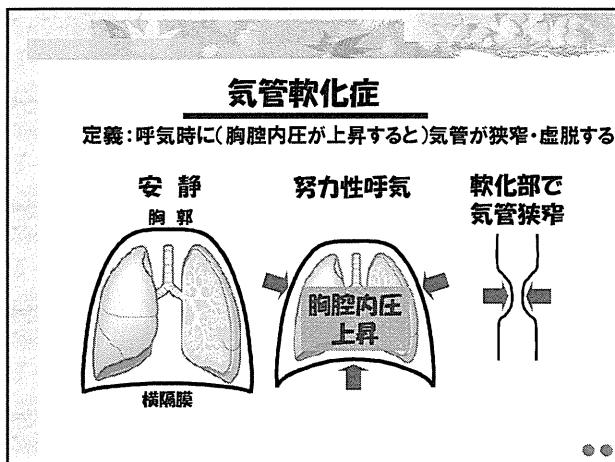
重症児の呼吸障害の特徴 2

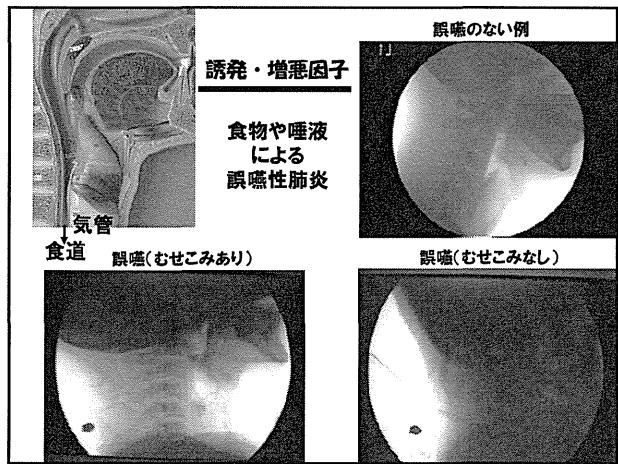
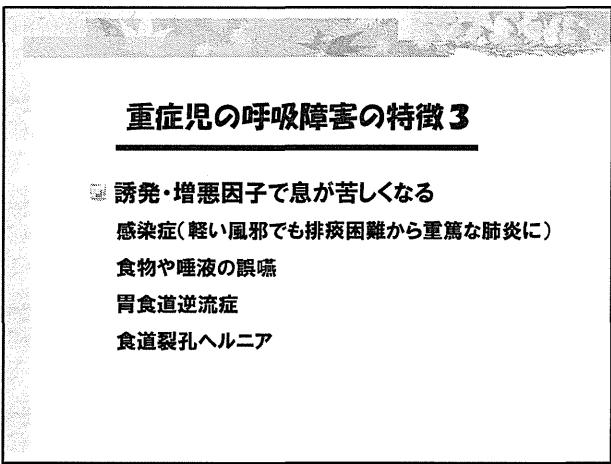
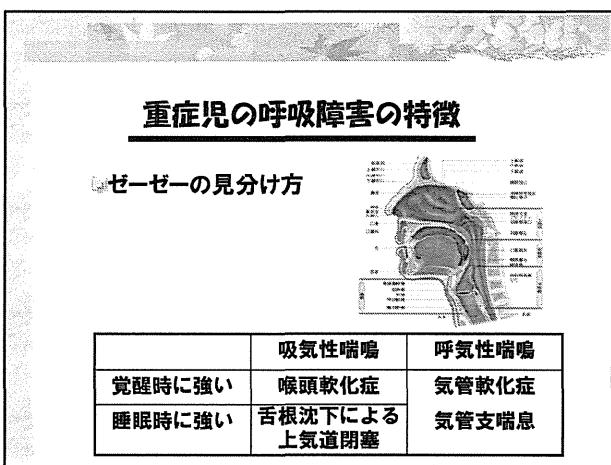
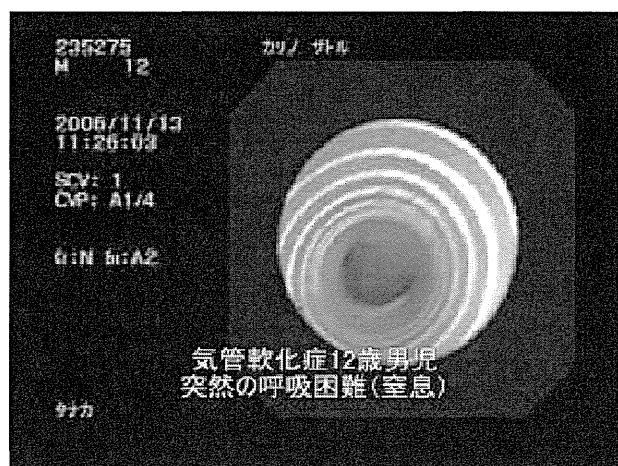
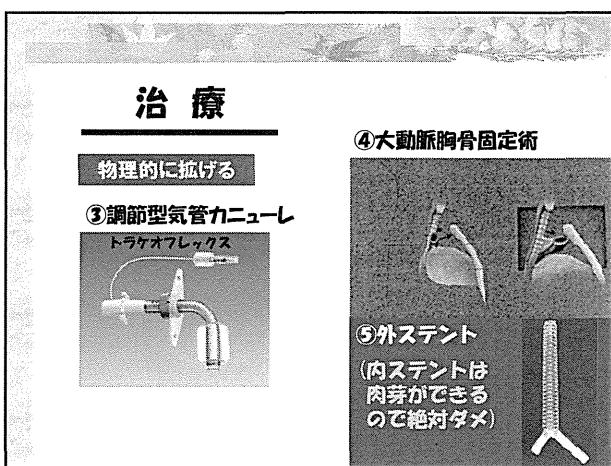
- 気道病変から息が苦しくなる
- アデノイド
- 上気道閉塞性呼吸障害
- 喉頭軟化症
- 気管軟化症

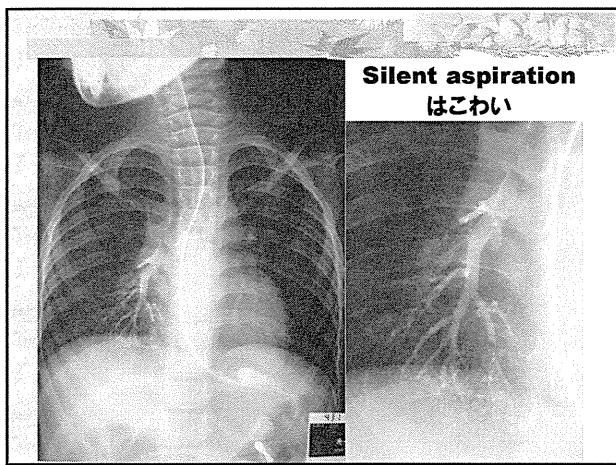












摂食嚥下障害へのアプローチ

すぐに経管栄養を選択せずに

- 摂食嚥下機能に見合った食形態の見直し
丸のみする子に普通食はきびしい
舌で押しつぶしの子にはプリン状のものを
- リラックスした姿勢
- 適切な食具の選択
- 摂食介助(オーラルコントロール)

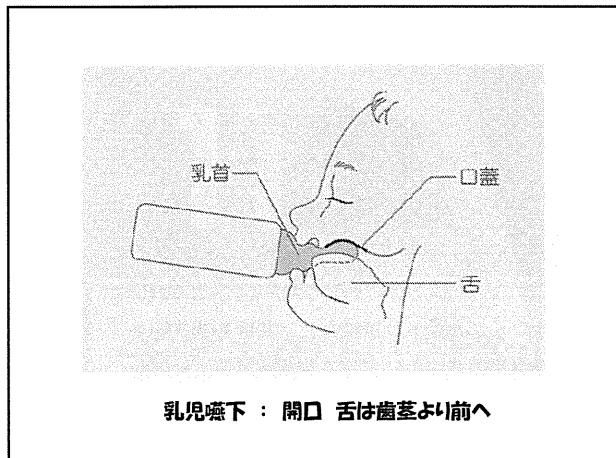
お互いに見合って

1. プリン
2. えびせん
3. 指しゃぶり

口角・舌の動きに注目

食具選択	舌と口の動きと食べ方の特徴	参考用語
ゴグン箱 (口蓋弁閉鎖)	口唇を閉じてゴックンができる(圧制閉鎖) 下唇が内側へ入るが、口角はあまり動かない。舌は前後に運動する	かたまくめのなむら かたべーすとくへーた へい状のこやーかー
セグメント箱 (舌骨へ閉鎖)	舌が上下に動く。食べ物を上あごに押し付けてつぶせる。左右の口角が同時に動く 舌を伸縮して、上下唇がしっかりと閉じて薄く見える	セーぐーそーく やフリシのイマージ みじん切りしたものや ひき肉はひさりやうの ドロモモづけると餘 み込みやすい
セミセグメント箱 (舌骨と口蓋へ閉鎖)	舌が左右に動くようになり、食べ物をぐさくらへおさえる。舌でささかひく。 口角が閉じにくく開く傾向。同じ他の筋肉もくわむ	つまんでみて、少しが を入れるとくわわく らいのまく。ハンバー グのソースやソーセー ジ、パッケージドライ 肉 Gottはステーキの時 こじてからりとなる ニードルです

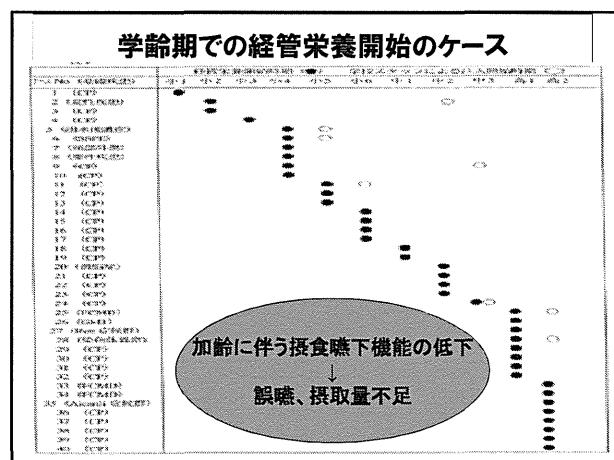
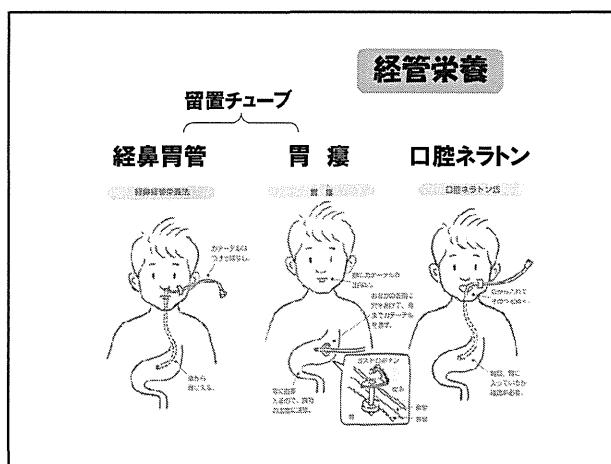
参考文献：久松田内科学会編著 p.12, 2002 食嚥嚥症編 実践的指導本うわばく食育 p.34-52, 1994 実践的指導本



摂食嚥下障害へのアプローチ

すぐに経管栄養を選択せずに

- 摂食嚥下機能に見合った食形態の見直し
丸のみする子に普通食はきびしい
舌で押しつぶしの子にはプリン状のものを
- リラックスした姿勢
- 適切な食具の選択
- 摂食介助(オーラルコントロール)

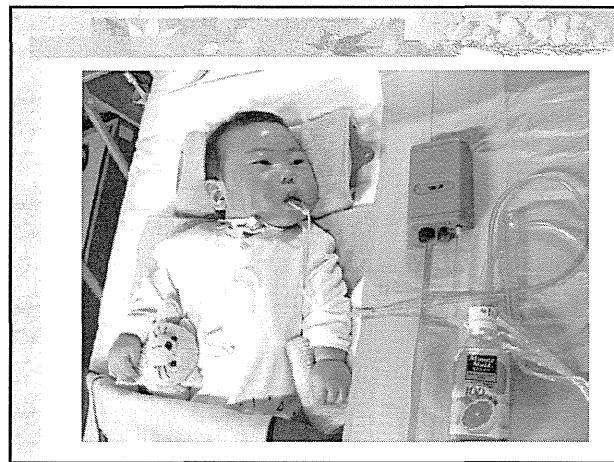


唾液の垂れ込み

- 経管栄養なのに、のどがゼロゼロする
- 注入後はとくにひどくなる
- よく肺炎を繰り返す

唾液の垂れ込みへの対応

- 体位交換前に十分口腔内を吸引しておく
- 口腔内低圧持続吸引を行う
 - シースターコーポレーション 低圧持続吸引器（6300円）
- ロートエキス内服（下痢止め）
- スピーチバルブ装着
- 喉頭気管分離術
- 声を失うという悲しみ

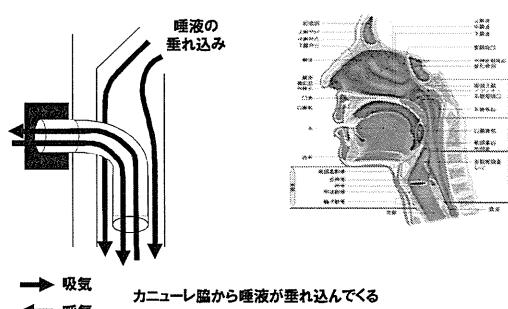


症例

- 12歳女児
- 1歳時の溺水後遺症のため気管切開管理
- 3歳からスピーチバルブの装着を開始
以降、誤嚥性肺炎は見られていない
- 日常に気道の喘鳴を認めるが、
スピーチバルブを装着すると軽快する

溺水後遺症
12歳女児
単純気管切開

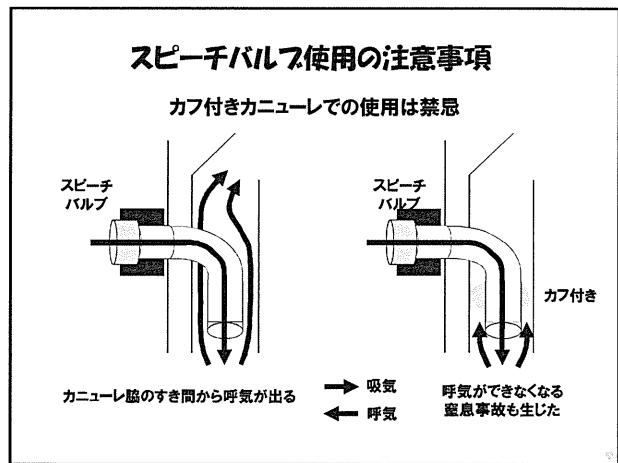
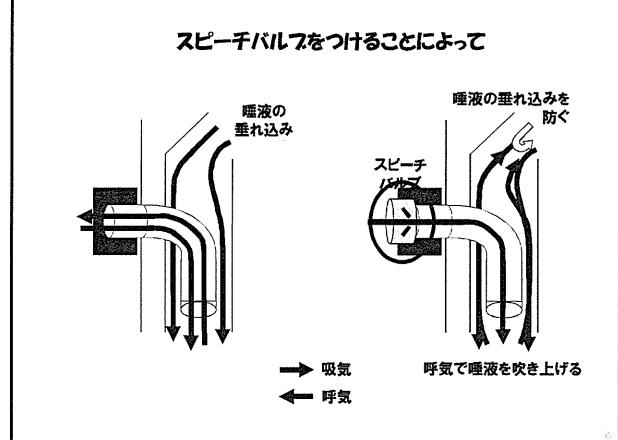
スピーチバルブ
未装着



スピーチバルブ装着

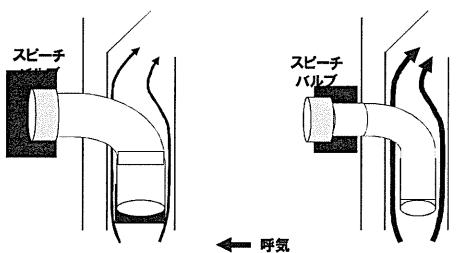
スピーチバルブ装着

気管壁とカニューレの間を
唾液様の分泌物が
口側へ流れる



カニューレ径を細めに

一般に、気管径に対して70%のカニューレ外径が適しているとされている



カニューレ脇からの呼気が十分にできるように
気管径に対してカニューレ外径が50~60%の細いものを選択している

